

邑(むら)の映画会実行委員会は、群馬県の映像教育を継続・発展させ、優れた映画作品の上映を通して、豊かな感性を育むための活動を行うことを目的としています。



# 邑むらの映画会

おとなが見まもるこどものまなざし。

Vol.9



## ホーム・マイホーム

1970年/日本/4分/35mm/カラー  
監督:岡本忠成

「モグラは土の中 キツネは土の上 モグラはあなをほる キツネははなをふる。2ひきはしらすに、おなじぼうに、あるいてた!」歌のリズムにのって、くしゃみしたり、とびあがったり。ことしの夏休み、東京のフィルムセンターでえいがをみて、子どもスタッフがえらびました。「音楽があるからいい!」4分のなかにアニメーション映画のすべてをとりこんだ、けっさく。紙でつくったかわいいうぶつがうごくよ。

毎日映画コンクール大藤信郎賞受賞



## くつやとこびと

1960年/日本/14分/35mm/カラー  
監督:神保まつえ

くつやのおじいさんは、毎日くつを作ります。「もう、くつを作る皮がない。あすは最後のくつを作りましょう!」おじいさんは言います。するとどうでしょう。その夜、こびとがやってくる。トントン、ギコギコ、朝にはすてきなくつがありました。次の夜も、また次の夜も、みんなで歌をうたいなから、くつをつくって帰ります。グリム童話のお話をアニメーション映画にしました。心のやさしいおじいさんとおばあさんとこびとたちの人形が、たのしい音楽にのって動くよ。



## 雌牛 めうし

1989年/ロシア/10分/35mm/カラー  
監督:アレクサンドル・ペドロフ

ロシアの大地。その場に生きる農夫とその家族。生まれた子牛は売られていった。雌牛は悲しみ、汽車にひかれて死んでいった。大きなスクリーンに映し出されるやさしい目の雌牛と、よりそう農夫の息子。この映画、生きることの永遠の愛を描いた祈りの世界。見る者の心をとらえて離さない。監督のデビュー作。ガラス板に油えのくで描かれた一枚一枚の絵が動くよ。広島国際アニメーションフェスティバルグランプリ受賞



## トゥ・リアン

1978年/カナダ/11分/35mm/カラー  
監督:フレデリック・バック

星はかがやき、太陽はキラキラ光る。宇宙には動物、人も生まれた。自然と共に暮らした。喜びあふれる世界。けれど、いつか、人間が、あれも欲しい! これも欲しい! あまりにも好き勝手にするものだから、生きものは殺され、木は切り倒され、ごみはあふれ…。でもね、あるとき、人の心によみがえる。森へ、海へ、帰ろう。まあるい、まあるい、地球へ帰ろう。七色かがやく、地球へね…。© Soci t  Radio-Canada



## ドタバタ撮影所

1910年代/アメリカ/11分/16mm/白黒/実写  
スタッフ・キャスト詳細不明

男が車にはねられた。その車に乗っていた女優を追いかけ、映画の撮影所にもぐりこむ。撮影中の着ぐるみのシロクマを本物と間違えたところから、撮影はメチャクチャに。そこに本物のライオンが現れて、てんやわんやの大騒動。逃げ回る男と動物のギャグまたギャグの連続で、今から100年も前に作られた無声映画の傑作喜劇。試写でみた子どもたちはハラハラ、ドキドキ、お腹を抱えて笑ったり…。おもしろい映画を上映しよう! と、子どもたちが選びました。



## 道

1954年/イタリア/115分/35mm/白黒  
監督:フェデリコ・フェリーニ

世界には決して忘れられることのない映画が何本かある。巨匠フェデリコ・フェリーニ監督のこの映画は、間違いなくその一本だ。日本での公開は1957年。半世紀以上も前のこの傑作を、まだこうしてスクリーンで見ることの出来るのは、なんとも幸せなことだ。粗野な旅芸人、ザンパノと、ただただ天使のように無垢な、貧しい育ちの娘、ジェルソミーナとの、痛切極まりない映画である。

©BETA FILM. All Rights Reserved.



平成28年度 邑楽町「協働のまちづくり事業」

## 2016年11月3日(木・祝)

開場 ■ 11:30 上映 ■ 12:20~ 会場 ■ 邑楽町立中野小学校体育館

参加費 ■ 大人 1,000円(当日 1,200円) / こども(高校生以下) 300円 / 乳幼児無料

12:20 ■ アニメーション映画《ホーム・マイホーム》《くつやとこびと》《雌牛》《トゥ・リアン》《ドタバタ撮影所/実写》

13:40 ■ 講演「映画は祈り」映画監督 小栗康平 14:40 ■ 劇映画《道》フェデリコ・フェリーニ監督

主催 ■ 邑の映画会実行委員会/邑楽郡邑楽町光善寺275-2 / 邑楽町教育委員会

協力 ■ 東京国立近代美術館フィルムセンター / (株)エコー社 / (株)学研教育アイ・シー・ティー / (株)KADOKAWA / (株)スタジオジブリ / (株)マツダ映画社

協賛 ■ 館林西ロータリークラブ / 社会福祉法人館邑会 / 朝日印刷工業(株) / 高源寺 / 恩林寺 / 大信寺 / 加藤医院

後援 ■ 邑楽町立小中学校PTA連合会 / 楽町立幼稚園PTA連合会 / 邑楽町立保育園保護者会連絡協議会 / 風の子保育園保護者会 / 邑楽町文化協会/邑楽町公民館・おうらヤングプラザ

・長柄公民館・各利用団体連絡協議会 / 群馬県 / 群馬県教育委員会 / 館林市教育委員会 / 板倉町教育委員会 / 明和町教育委員会 / 千代田町教育委員会 / 大泉町教育委員会 / 上毛新聞社 / 朝日新聞社前橋総局 / 毎日新聞前橋支局 / 読売新聞前橋支局 / 産経新聞前橋支局 / 東京新聞前橋支局 / 群馬テレビ / エフエム群馬

チケット予約・問合せ ■ 邑(むら)の映画会実行委員会 Tel.0276-89-0010 / 邑楽町教育委員会生涯学習課 Tel.0276-47-5043 公式サイト ■ <http://kenokuni.jp/muracinema>

チケット取扱い ■ 邑楽町公民館 / おうらヤングプラザ / 長柄公民館 / 板倉町教育委員会生涯学習課 / 明和町中央公民館 / 千代田町民プラザ / 大泉町文化むら / 西の洞(館林) / ノイエス朝日(前橋) / シネマテークたかざき / 深谷シネマ

### 講演「映画は祈り」

歩いているとき、目は、ぶつからないように、転ばないようにと、身の安全を確かめて、ものを見ている。目は、私たちの行動とともにある。しかし映画を見ている私たちは、行動していない。ただ見ているだけだ。静物画で描かれたリングが食べられないのと同じように、自分では食べられない映画の中のリングを見ている。その時の目は、現実の有用性から離れている。自由になっている。では離れて、なにを見ているのか。目が祈っている。映画を見ていて、そう思うときはありませんか。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平